

## 「第2回 豊橋市街路樹再生指針検討委員会」議事内容

- 日時 平成29年6月29日（金） 14時30分～16時
- 場所 豊橋市役所 東館12階 123会議室
- 出席委員 別紙「出席者名簿」参照
- 事務局 8名

### 〔会議資料〕

- ◆次第
- ◆【資料1】街路樹に対するこれまでの取り組みと新たな挑戦（スライド資料）
- ◆〔参考資料〕街路樹に関する市民意識調査

(開会前：前回の現地視察の振り返り)

・第2回の検討委員会に入る前に、第1回目の検討委員会で行った現地視察の感想、意見を各委員に伺った。

(委員)

市内には私が以前植えた街路樹もあり思い入れもあるので、自分の成長のように木の成長を見続けてきた。事務局の案内にもあったが、※森田欣尚さん、青木元市長をはじめとして、積極的に緑化を推進したことで、建設大臣賞を受賞するなど輝かしい時代があった。木の一番良い時期は40年～50年と言われているが、一番見栄えもして、健全な時期に表彰を受けたのではないかと思う。それから30年ほど経過し、今は樹種によってどうしても環境に適さないものや、狭い※植樹柵の中で大木化しているなどの現状もある。場所によっては※強剪定になってしまい、木が立っているだけの状態で景観としてもよくないところが見受けられる。

街路樹というのは、永久的に健全な状態が続くものではないので、時期に見合った見直し・手入れが必要だということを改めて感じた視察であった。

(副委員長)

・まず、飯村の※緑道だが、今あの緑道がどの程度地域住民に利用されているのか。緑道が造られてから相当年数が経ち、手入れが必要になっていると思う。※大径木になったから強剪定し、樹形が乱れるという悪循環が生じている。強剪定すると※樹勢は弱くなる。せっかくの緑道を有意義に使うため、このような問題に対応できるよう街路樹の再生が必要だと思う。

・クスノキ並木(通り)は※樹冠が大きく、状態が良いと思った。クスノキは市の木であり、これからも大事にしていくべき通りだと思う。

・佐藤町のあたりのベニバナトチノキについては、まだ将来は分からないが、植栽間隔がちょうどよく、これから樹冠もよくなっていくのではないかと。

・飯村～向山あたりのケヤキ並木も樹冠がいい。強剪定などせずに、これからもある程度樹冠を伸ばして欲しい。

・反対に、色々なところに植えられているアメリカフウ、トウカエデ、イチョウは剪定が強く樹冠が形成されていない。岩田運動公園のあたりなど、かなり植栽間隔が狭いが、間伐をして樹冠を形成させる方がいい。※植栽柵は簡単に動かせないと思うので、伐採後に空いた植栽柵をどう活用するかも検討した方がいいと思う。

## 用語説明

※森田欣尚氏…当時の市役所公園緑地課長

※植樹柵…アスファルト等で舗装された歩道等において街路樹などを植えるために設置する植栽地をいう。

※強剪定…太い枝を短く切り詰めたり、多くの枝や芽を切り落とすような剪定のこと。

※緑道…適度に緑を配置した遊歩道(散歩に適するように作られた歩道のこと)を指す。

※大径木…断面の直径が大きい材木や、幹が太い種類の樹木のこと。

※樹勢…樹木の生育状態。樹の勢い。

※樹冠…樹木の枝や葉の茂っている部分。

※植栽柵…植樹柵

(委員長)

木の本数が多く、緑を増やすという方針で豊橋市が緑化を進めてきたのがよく分かった。副委員長もおっしゃったように、樹冠が大きい街路樹が植栽されていると、道路としても風格が出て、景観上にも良いと感じた。ただ、密に植えすぎて、狭苦しく感じる場所もあったため、植栽するときは、何十年後かの成長した姿を想定してほしい。本数は少なく、一本一本を大きくした方が見栄えがいいと思う。

また、場所によっては植樹柵があるのにもかかわらず、木などが全くないところもあるため、そうすると夏などは暑くなり、よくない面もあるため、緑化に関し調整をとってほしい。

(委員)

場所によっては電柱なのか、街路樹なのか、とってしまうような(枝葉の少ない)街路樹が印象に残った。管理上の問題等も理解できるが、やはり剪定を強く行ってしまうと、景観面からしても何をしたいのかという意図が分からなくなってしまふ。落ち葉の清掃等が問題ということであれば、※間引くのがいいのではないか。樹冠をしっかり作り、葉が大きくなれば成長の速度も遅くなる。樹冠があり、葉があるとそちらに成長のエネルギーが投入され、枝はコンパクトになる。葉が2倍、3倍になっても、木の本数を減らせば、全体としての葉の総量は変わらないかもしれない。今のように、木に無理をさせる街路樹の状態が続くのであれば、本数を減らすというのも一つの案ではないか。※間伐をすると新しい芽が出る場合もあると思うので、その芽を育てていき、順番に間伐するとそうすると道路自体の街路樹の入れ替えができるのではないかと思う。

(委員)

クスノキ(並木)通りで住民からクスノキの枝が落ちるといふ声が出ているという話があった。枝が落ちている原因として老木化していることや、木が弱っている・病気であるということをも事務局が説明されていたと思うが、原因は剪定の仕方にあるように思えた。切り方が悪いと樹木に悪影響であるし、その切り口から水が入り、※水みちが出来たところの枝に「ノキシノブ」といふ植物がその水みちに沿って付いてしまふ。そこからどんどん水が入って枯れていき、木が弱っていくという状況になる。枝が落ちたときにそこに気付かないと、落枝の原因は病気や老朽化ということになってしまう。私からすればその原因は剪定の仕方にあると思う。今回は車窓から見ただけなので、色々

のこと。歩道等において主として街路樹を植栽するために設置する植栽地をいう。

※間引く、間伐…植物などを十分に生育させるために間を隔てて抜くこと。

※水みち…みずみち。雨露などが流れる道。

な要因はあると思うが、もしそれが原因だとしたら、業者への剪定指導、剪定のマニュアル作り、講習会の開催、発注時の剪定方法義務付けなどが対策として求められると思う。もしそのような業者への指導の場を広げられるなら、樹種ごとの勉強会、剪定方法なども実施できればいいのではないか。せっかくの市の木であり歴史あるクスノキの通りを守っていくならば、剪定する側の知識がないと、本当の意味で街路樹を守ること、再生することはできないと思う。

(委員)

根上りや老木等、色々問題があると感じた。行政としてできることには限界があることも理解できるので、視察した飯村の緑道など、問題解決のため地域の方の協力を得られるような体制をとる必要があると感じた。

先ほど委員のお話でもあったように、今から 30 年ほど前はちょうど樹木が健全な時期にあたると思う。現在も豊橋市は「水と緑のまち」ということを謳っているが、あの頃と比べたら現在の街路樹等の緑の様相は寂しく感じる。

## 1. 開会

## 2. 議事

基本的な考え方及び方針について

・事務局から資料 1、参考資料に基づき、パワーポイントのスライドを用いて街路樹再生指針策定の考え方と方針案についての説明が行われた。

(事務局長)

ただいま事務局が示した方針案に基づいてお話しいただければと思う。

(副委員長)

・アンケートの中で街路樹はいらないとの意見もあったが、緑の価値が市民にあまり理解されていないのではないかと感じた。緑をうまくデザインすると土地の価値が 20%上昇するというデータがある。街路樹はただ植えればよいというものではなく、それをうまく活用し、観光につなげる。まちの価値を上げる効果がある。

・最近では地域の方が植栽の際にハナミズキを植えたいという要望が多

い。しかし、ハナミズキは樹勢も弱く、環境に耐えられなかったり、すぐ枯れてしまったりと根付きが悪い。また、樹冠も形成しない。説明の中で「市民と協働して…」というものがあつたが、地域の人に樹種の選択を提案する際には樹木の特性などの詳細が記されたリストの提供が必要になる。そうしないと、みな安易にハナミズキを植えたがる。しかし、街路樹として適切な樹種を選択することの方が大事であるので、その説明は丁寧にした方がいい。

・名古屋市などの案にもあるが、街路樹に※「樹名板」を付けるというのはいいと思う。豊橋市内の街路樹を見ても、樹名板はあまり付いていないのではないか。公園緑地課が作成している街路樹マップなど、市のホームページでも木の名前などを知らうと思えばできるものもあるが、そうではなく、もっと気軽にその街路樹の側を通った時に目に入り、木に親しみをもてる機会を作ることがコミュニティの形成にも重要だと思う。

(委員)

・今回示された3つの方針案は、一言で言うと「(1) 安全性」、「(2) デザイン」、「(3) 市民を巻き込む」ということになり、アンケートの結果などをうまく反映できているように思う。アンケートの回答でもあったように、その方針を教育面の施策だったり、地域住民の理解促進だったりにどう落とし込むかが大切であると思う。

(委員長)

・街路樹の機能として景観形成などもあると思うが、街路樹だけでまちに風格をもたらすのは難しいと思う。各家庭の緑も含め、もっと広い範囲での景観を考えたらどうか。事務局からの説明で最後に示された「再生の鍵 選択と集中」の考えのとおり、予算には限りがあり、あれもこれもやるというのは困難なので、できる範囲(選択)を絞り、力を入れるべきところを見定めていかなければ、理想だけで終わってしまう。狭い道路に無理に街路樹を植えないようにして、まずは行政が管理できる範囲を把握する必要がある。

・方針3では市民との協働が大きく謳われているが、あまり自治会へ期待し過ぎない方がいいと思う。地域のことや市民との協働という話になると、どうしても「自治会」に頼りがちになってしまうが、現在、自治会には様々な仕事が舞い込み、それがかなりの負担になっている。各家庭の庭(地域の人が歩けるような※イングリッシュガーデン)のように、私有地等への支援にも力を入れて、そうすれば市全体の景観や緑も向上していくと思う。街路樹にだけ期待をしないことが重要で、自治会だけではない市民協働の手立ても考えてほしい。

※樹名板…植物の名前や原産地などを記載した名札のこと。

※イングリッシュガーデン…英国式の園芸スタイルで、草花などを自然な雰囲気の中で植栽した景観美を特徴とするもの。

・スライドの最後に示された「選択と集中」ということを実現するためには、街路樹だけではできないということを考えていただきたい。

(委員)

・行政側の立場からいうと、委員長のおっしゃたように予算には限りがあるので、力を入れていくところ「モデル地区」を作ることが重要だと思う。

・地域のボランティア活動などは、日中仕事のある現役世代が行うのは難しいので、これからさらに増える高齢者にいかに活躍してもらうかが大事である。先ほどアンケート結果の中で、※守りびとの「高齢化」を問題視しているようだが、あえてそこに智慧を絞るべきだし、大いに議論したい。

(副委員長)

・方針3の視点だが、先ほど話にも出たように、自治会に頼って協力を求めるというのはどうにも難しい時代であるので、この方針を進めるにあたっては「緑のリーダー養成講座」が非常に効果があると思う。今まで田原市の「田原里山の会」や豊川市の「豊川市里山リーダー」で東三河ふるさと公園などの取り組みを行ってきた。市民の中から緑のリーダーを養成し、街路樹をはじめとした緑化に興味・関心を持ってもらったうえで、維持・管理に一役買って出てもらおうと上手く機能するようになるのではないかと。緑のリーダー養成講座の参加は、豊川市は比較的若い世代(30代~40代)の人が集まっている。豊川市のように、毎月第4土曜日に作業日を設定するなど、なるべく参加者の負担が大きくなるような働きかけ・取り組みが求められると思う。

(委員)

本日提案された方針の中で、私は方針2が最も重要だと思う。街路樹の再生にあたっては、方針1や3のようなことはどの自治体でも掲げている、基本的な事柄になる。しかし、指針は「豊橋らしさ」が大切であると思う。スライドの説明にもあったように、豊橋市は今まで※自然樹形にこだわってきたり、緑化を推進してきたという歴史があり、それが豊橋の原点だと思う。すべては難しくとも、できる限りその豊橋らしさを受け継いでほしい。自然樹形は地域住人から理解が得られにくいからという理由で簡単にやめてしまって、落ち葉が出ないように強剪定するのではなく、その歴史を大事にし、「あえて自然樹形にこだわる」という姿勢をもってほしい。

※守りびと(もりびと)…街路樹の清掃活動等の維持管理に取り組む市民ボランティアのこと。今回のアンケート調査で街路樹愛護会加入者や緑のアダプト制度登録者に敬意を込め、このように呼称した。

※自然樹形(仕立て)…樹木固有の樹形を尊重し、剪定を健全な生育のための枝抜き、官民境界の枝詰め等、必要最小限にとどめた方式のこと。

(委員)

方針3の言葉の話だが、「地域の緑の空間形成」ではなく、「地域の想いを空間形成」の方が良いのではないかと思う。地域住人の緑への愛着や今までの歴史、コミュニティの意義などを大切にするなら、「想い」という言葉の方が適切ではないか。

(事務局)

本日、提案させていただいている方針は事務局としてもまだ案の段階であり、これから皆さんのご意見を受け、練り上げていくものである。

「課題の総括」を説明したスライドで、現在の街路樹の抱える問題として「魅力が伝わっていない」と表現しているが、実際には市が「魅力を出し切れていない」という現状である。各委員のご意見を反映させ、よりよい方針に仕上げていきたいと思うので、これからはぜひご提案ください。

(委員)

「自然樹形」へのこだわりという話が出ているので、今後の委員会運営への提案として、「自然樹形」の可能性を追求してほしい。剪定の仕方として、「自然樹形を維持するためにどの程度の予算が必要になるのか」「どの程度間伐等を行えば現在の予算でも対応できるのか」など、いくつかのパターンに分けたものを提案してもらえれば、もう少し自然樹形の可能性を探れるのではないかと思う。自然樹形はダメだからやめる、というのは簡単だが、“トライ&エラー”をしながらでもやってみた方がいい。

(副委員長)

市では街路樹の剪定などの維持管理に関し業者委託を行っているが、毎年委託業者が変わっている。あれはいかがなものか。契約上、難しいことだとは思いますが、一年ごとに業者が変わっては業者もその街路樹・路線の経過が分からないし愛着が持てないため、複数年かけて評価をしたらどうか。

(事務局)

副委員長がおっしゃたように、一年ごとに業者が変わっては良い維持管理は難しいということについては事務局も同様の認識を持っており、複数年契約に関して一昨年から検討している。ただ、本市の入札など契約上の約束事があり現状ではそれを変えることはできないが、これからは可能性について勉強していきたい。

(委員)

同じ業者と契約するのが難しいのであるなら、剪定のマニュアルを作ったり、研修会を実施したりするということが不可欠だと思う。それによって、街路樹に対する市側の意向を、各業者に統一事項として伝えていくことができるのではないか。

予算がないからといって、一度にたくさん切り、それを毎年繰り返してしまつと、どうしても樹形が悪くなり、景観もよくない。

(事務局)

昔は委託業者による剪定も年に2回の時があったが、予算削減の中で年1回の剪定になってきた。他都市の例としては、京都市で年2回の剪定を実施している。しかし、その分管理費が増大するという記録もあった。

(委員)

・確かに、年2回だとその分の手間や仕事量が増えるため、予算を抑えるには1回で済ます、という考えもある。ただ、個人の邸宅の庭などは、剪定の作業方法によっては年2回行えば、その分1回の枝の量等が減り、作業が楽になる部分もあるため、2回でも1回と変わらない場合もある。

・自然樹形という考えで行くのなら、みなにその考えを浸透させる必要がある。自然樹形では見た目に違和感のない剪定（剪定の前と後も、パッと見た感じでは変わらない様子）になるため、自然樹形とはそういうものだという考えを認識してもらわなければならない。私も業者指導などに携わることもあるが、特に若い業者だとその認識があまりないように思う。若い技術者は書物でその方法を目にしたことはあっても、実際に剪定するとやはり切りすぎてしまう。自然樹形の方法を業者に広め、どの業者がやっても同じ認識にしないといけないと思う。

(委員)

剪定前後の樹木の姿は、その作業量が分かりやすいものが求められがちである。自然樹形仕立てなど、あまり切らない剪定方法は分かっていない人を見ると本当に剪定の前後の判別がつかない。見る人が見れば、どういう意図をもって剪定したのかが分かるため、そうした人材、特に若い技術者を育てていくというのも重要だ。



(委員長)

本日は事務局より街路樹再生に向けての方針案が示された。

方針1は道路の状況に応じ、安全を優先して適切な維持管理をしていくということ、方針2は豊橋の昔からの歴史を継ぎ、豊橋らしさを活かした景観・デザインとしての緑化を目指すということ、方針3は市民との協働によるコミュニティの形成の大切さを表しているのだと思う。

次回の委員会では方針実現のための具体的な提案や対策が示されると思うので、よりよい協議のため皆さんご協力をお願いしたい。

### 3. その他

事務局からの連絡事項

(次回開催予定：平成29年8月22日(火)13時30分～  
東館8階80会議室)

### 4. 閉会